

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 気血双補剤 1		
きひとう 帰脾湯	益気補血・健脾養心	白朮・茯神・黄耆・竜眼肉・酸棗仁各9g・人参・木香各4.5g・炙甘草・当帰・遠志各3g 生姜・大棗と水煎し服用する。上記の割合で蜜丸にし、1日3回15gずつ服用してもよい。
濟生方	<p><主治></p> <p>心脾両虚 動悸、健忘、不眠、発熱、食欲不振、倦怠感、顔色が萎黄、舌質は淡、舌苔は薄白、脈は細緩などを呈す。</p> <p>脾不統血 血便、皮下出血、不正性器出血、月経周期の短縮、経血色が淡く量が多い、月経の持続が長い、帯下などを呈す。</p> <p><病機></p> <p>心血虚と脾気虚が同時にみられる病態である。</p> <p>心脾両虚の場合は、 心は神を蔵し血を主り、脾は思を主り血を統撰するので、思慮過度や疲労によって心脾が障害されると、脾気が虚して、倦怠感、食欲低下などが出現し、心血が暗耗し心神が濡養されなくなって、驚きやすく動悸がする（驚悸）、持続性の動悸（怔忡）、健忘、不眠など心神不寧の症候が現われる。気血不足のために顔色は黄色でつやがない、舌質が淡、舌苔が薄白、脈が細緩を示す。気虚で発泄ができず陽気が鬱すると発熱がみられることもある。</p> <p>脾不統血の場合は、 脾は統血しており、脾気が虚すと統撰ができなくなって血が脈管外に漏出するので、皮下出血、血便など慢性で反復する出血傾向が生ずる。衝脈も固撰できなくなると、不正性器出血、月経周期の短縮、月経血量の増加をきたし、血が不足しているので経血は淡色を呈する。脾虚で水湿を運化できないと、湿濁が下注して白色帯下が生じる。</p> <p><方意></p> <p>心脾両虚には益気補血、健脾養心すべきである。 甘温の人参・黄耆・白朮・炙甘草・生姜・大棗で補脾益気し、甘辛温の当帰で肝血を養い心血を生じ、甘平の茯神・酸棗仁・竜眼肉で養心安神する。遠志は心腎を交通させて定志寧心に働き、木香は理気醒脾すると共に滋膩の益気補血薬による滞気を防ぐ。</p> <p><参考></p> <p>本方（帰脾湯）と補中益気湯は共に補気の効能を持つが、以下のような相違がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 配合においては、本方（帰脾湯）は補気健脾、養心安神、交通心腎の効能を持ち、健脾養心して統血、生血するのが目的であるのに対し、補中益気湯は補気健脾と下陷した陽気の昇提の効能を持ち、補気昇提して昇清降濁を回復させるのが目的である。 * 主治は、本方（帰脾湯）は心脾両虚、脾不統血による「心悸怔忡、食少体倦、下血」などで、補中益気湯は、脾胃気虚による「発熱、体倦、少気懶言」や気虚下陷による「下脱、下垂」などである。 <p>日本での保険適応効能、効果 虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症；貧血、不眠症</p>	
かみきひとう 加味帰脾湯	益気補血・健脾養心・清熱解鬱	帰脾湯 + 柴胡9g・山梔子6g 水煎し服用する。
濟生方	<p>主治は、心脾両虚の肝鬱化火を兼ね、帰脾湯の証に、いらいら、のぼせなどを伴うものである。疏肝理気の柴胡と、清熱の山梔子で肝鬱化火を鎮める。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症；貧血、不眠症、精神不安、神経症</p>	